

出世街道

淀川の河口に形成されたデルタ地帯（福島区や西淀川区）には、中小企業の工場がたくさんあります。かつては、公害の街といわれた時期もありました。最近では工場が減り、交通の便が良いので、跡地にマンションや介護施設が多くなりました。この地域では、後の大企業が数多く起業しています。今回は、福島区の松下幸之助創業の地を歩いてみました。



中嶋哲夫の「人事も歩けば」

松下幸之助創業の地は、阪神電車の野田駅から西に7分～8分歩いた大開という地名の場所にあります。駅から創業地までは、商店街が続き、「なにわの出世街道」という旗が掲げられ、ところどころに人生訓が掲示されています。幸之助や福澤諭吉などの言葉です。しかし、全体としては人の流れから取り残され、寂れた商店街という印象を受けます。この商店街の外れにある銭湯の壁に案内板があり、そこから横道に入ると、「松下幸之助創業の地、第一次本店」という表示板があります。他の建物の間に挟まってこじんまりと表示板が収まっています。当時の雰囲気を伝えるものは何も残っていません。

パナソニックの創業は1918（大正7）年。第一次世界大戦が終了した年です。つまり、松下幸之助は戦後不況に向かう時期に起業し



たこととなります。大開の町に家を借り、ソケットの試作を開始しています。

松下幸之助創業地のすぐ近くに、西野田工科高校（工業高校ではなく工科高校）があります。こちらは1906（明治39）年設立です。大阪府立職工学校として認可を受けてから、機械系4科と建築系2科が設けられました。もう少し歩き進むと、行き止まりにはレンゴー淀川工場があります。1920（大正9）年に東京で設立されたものの、関東大震災のために1926（大正15）年に本社を大阪に移転。新たに最新鋭の工場として設立された工場です（レンゴー株の登記簿上の本社所在地になっています）。

当時の大開は、大きく開けた何もない場所だったのでしょう。そこに、技能を育てる学校と起業を目指す人たちが集まって、時代を大きく開くエネルギーがあったのだと思います。大開という地名の本来とは違う意味のようですが、時代を開く精神が少しは込められた地名であるように感じました。

（MBO実践支援センター代表）

